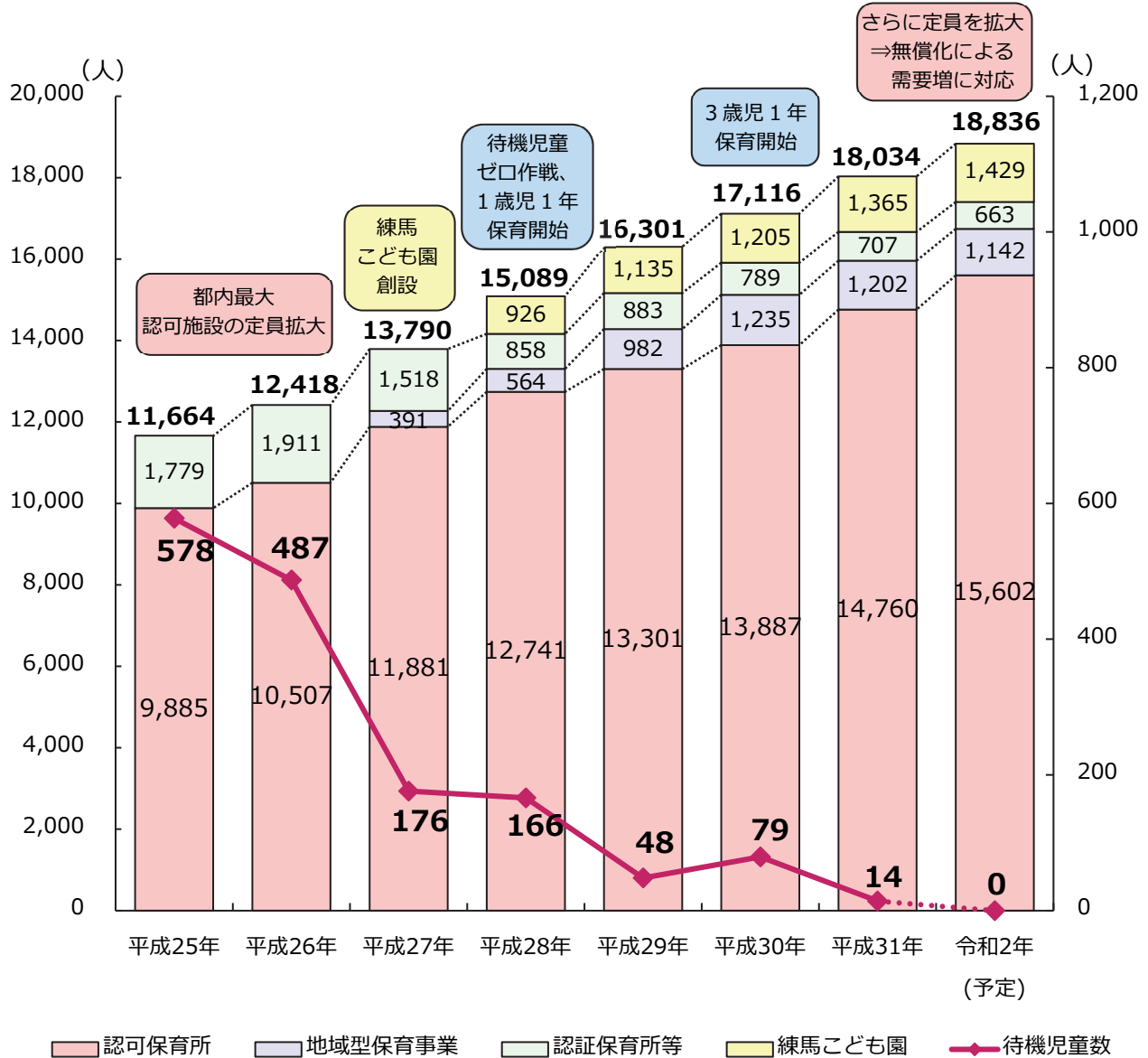




1 保育サービスの拡充

増加を続ける保育ニーズに対応するため、練馬こども園を創設するとともに、待機児童ゼロ作戦を展開し、全国トップレベルの定員増を実現してきました。この結果、平成25年度からの6年間で定員を6,000人以上拡大し、平成31年4月の待機児童数は過去最少の14人となりました。幼児教育・保育の無償化による保育需要の増加への対応を含め、令和2年4月に向けては、新たに私立認可保育所を16か所整備するとともに、練馬こども園を3園認定し、定員を802人拡大します。

● 保育定員の推移



資料：こども家庭部（各年4月1日現在）

「練馬こども園」の創設（平成 27 年度）

全国初

「3歳からは長時間保育のある幼稚園に通わせたい」という保護者の希望に応えるため、全国初となる地方自治体型の幼保一元化施設として「練馬こども園」を創設しました。

「練馬こども園」は、通年で11時間の預かり保育を行う私立幼稚園を区が独自に認定するもので、毎年定員を拡大しています。保護者の選択の幅が広がり、共働き家庭などからも利用されています。

令和元年度、新たに低年齢型（0～2歳）と短時間型（9時間）の仕組みを設けました。



待機児童ゼロ作戦の展開（平成 28 年度）

増加する保育ニーズに対応するため、平成 28 年度に「待機児童ゼロ作戦」を展開し、1年間で定員を1,000人以上拡大しました。

平成 29 年度以降も、認可保育所の新規整備や区立幼稚園の空き教室を活用した3歳児1年保育等を実施し、平成 25 年度からの6年間で定員を6,000人以上拡大しました。

この結果、平成 31 年 4 月の待機児童数は過去最少の14人となり、過去最大の578人（平成 25 年）から大幅に減少しました。

待機児童ゼロ作戦 3つのポイント

- 0～2歳児を中心に、認可保育所等を新規整備 ⇒約 750 人増
- 既存の保育施設を有効活用し、待機児童が多い1、2歳児の定員を拡大 ⇒約 150 人増
- 保育所の遊戯室等を活用した1歳児1年保育の実施 ⇒約 100 人増

待機児童ゼロ作戦以降も、全国トップレベルの定員増を実現



1歳児1年保育・3歳児1年保育の実施

保育所等の利用が保留となっている児童への緊急的な対応として、利用が決まるまでの間、区立幼稚園や保育所の空きスペースを活用して保育する「1年保育」を実施しています。

「1歳児1年保育」は平成 28 年度から、バス送迎等による「3歳児1年保育」は平成 30 年度から実施し、セーフティネットとしての機能を果たしています。





2 家庭での子育て支援サービスの充実

0～5歳児のうち保育所や幼稚園に通っていない児童は、平成31年4月1日現在10,116人と全体の約3割を占めており、家庭での子育てを望む家庭への支援が求められています。

区は、子ども家庭支援センター等で実施する子育てのひろば「ぴよぴよ」や民設子育てのひろばを開設し、親子が気軽に交流できる場や一時的に子どもを預けられるサービスを提供しています。また、平成27年度に外遊びの場「おひさまぴよぴよ」を、平成30年度に発達に不安のある親子対象の「のびのびひろば」を開始しました。

令和元年度からは民間カフェと協働し、保護者が交流したり、子どもと一緒にリラックスできる場として「練馬こどもカフェ」を創設しました。

「おひさまぴよぴよ」の開始（平成27年度）

0～3歳児と保護者を対象に、公園の中で自然とふれあいながら親子で交流できる遊び場です。相談員へ子育て相談もできます。

室内で遊んだり、保護者同士が交流できる子育てのひろばは、毎年、実施施設を拡大しています。



●おひさまぴよぴよ … 平成27年度 4か所

●子育てのひろば … 平成27年度 22か所



令和元年度 7か所

令和元年度 27か所

「のびのびひろば」の開始（平成30年度）

子どもの育ちに不安のある親子を対象としたひろば事業です。相談員が子育てに関する相談も受けています。区内5か所の子ども家庭支援センターで実施しています。



「練馬こどもカフェ」の創設（令和元年度）

全国初

区内の民間カフェで、子どもが学び・遊ぶ機会や、保護者が交流したり、リラックスできる場を提供します。

地域の幼稚園教諭や保育所の保育士、栄養士、看護師を派遣し、育児に関する相談や子育て支援講座を実施しています。



3 相談サポートの充実



区では、安心して子育てができるように、妊娠・出産から子育て期（0～18歳）までの切れ目のないサポートの充実に取り組み、子どもの健やかな成長と保護者の不安や負担の軽減につなげています。

切れ目のない子育てサポート

●妊婦全局面談

保健師などが妊婦本人と面接し、妊娠・出産・子育てに関する相談に応じ、妊娠期の不安を解消します。

●乳児家庭全戸訪問

赤ちゃんが生まれたすべての家庭に助産師・保健師が訪問します。子育て相談や産婦の健康相談に応じ、育児不安を軽減します。

●子育てのひろば

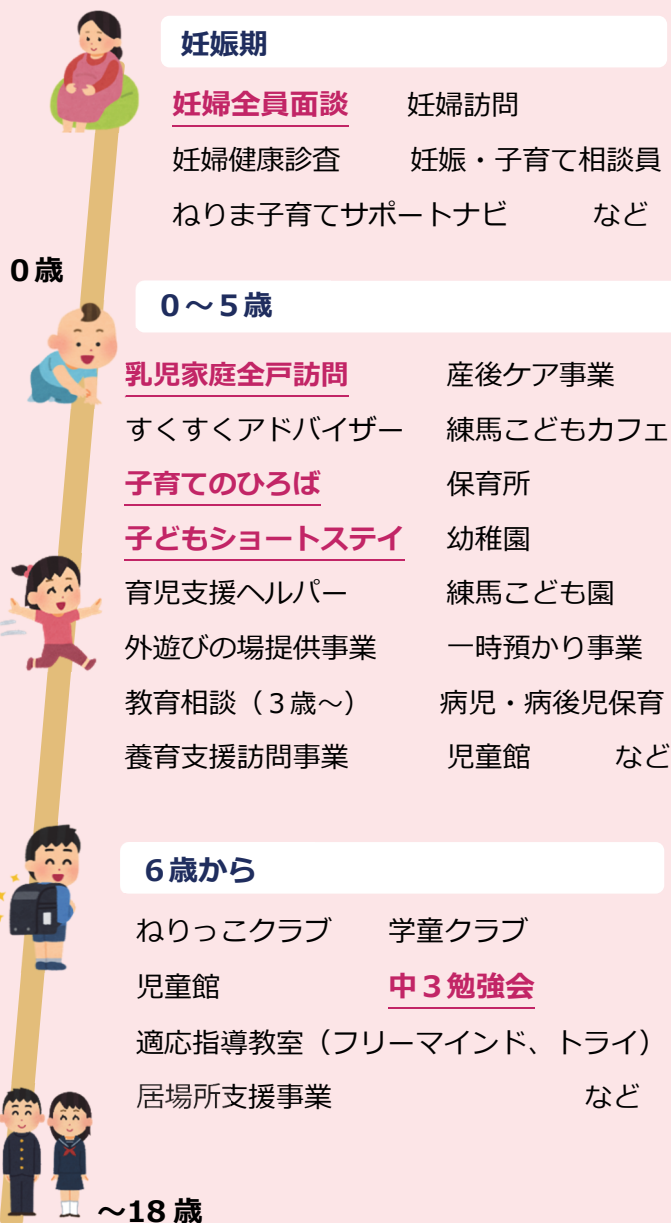
0～3歳児の親子が自由に遊んだり、気軽に育児の相談ができます。

●子どもショートステイ

保護者の出張や入院などで、一時的に家庭で子どもを見られなくなる時に施設でお預かりします。

●中3勉強会

経済的な支援を必要とする家庭の中学3年生を対象に、学習を支援します。



新しい児童相談体制の構築

子どもたちの福祉の向上のためには、区による地域に根差したきめ細かい支援と東京都の広域的・専門的な支援を適切に組み合わせた新たな仕組みが必要です。都と実務的な協議を重ね、児童相談所行政を共同して取り組む仕組みを構築します。令和元年5月に設置された児童相談体制等検討会には、練馬区も参加し、積極的に対応していきます。

4 すべての小学生を対象に放課後の居場所づくり

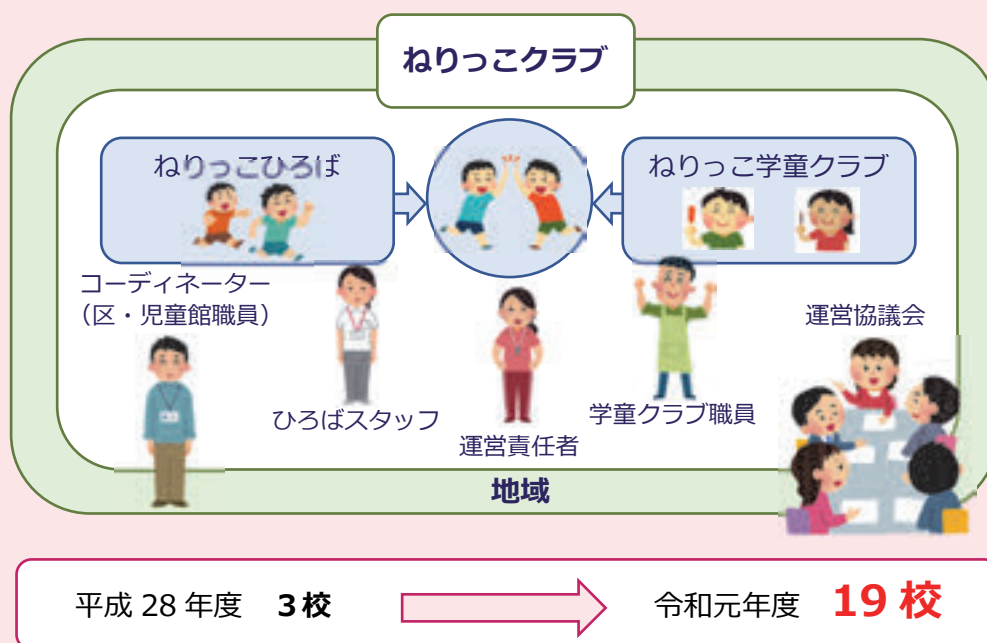


小学校内の施設を活用して、「学童クラブ¹」と「学校応援団ひろば事業²」それぞれの機能や特色を維持しながら、一体的に運営する「ねりっこクラブ」を推進しています。すべての小学生に安全かつ充実した放課後や長期休業中の居場所を提供するため、早期の全校実施を目指しています。

長時間保育の実施や駅前での開設等、多様な区民ニーズに応えるとともに、今後のねりっこクラブの担い手を育成するため、民間事業者を支援し、民間学童保育を拡充しています。

「ねりっこクラブ」の開始（平成 28 年度）

小学校の敷地内で安全に過ごせる環境に加え、地域の方々の支えのもと、充実した放課後の時間を提供します。



「夏休み居場所づくり事業」の拡充（令和元年度）

夏休み期間、小学校のひろば室等で、子どもたちが安全に過ごすことができる居場所を提供する「夏休み居場所づくり事業」を実施しています。

令和元年度は、実施校を 10 校に拡大しました。学童クラブ運営事業者と学校応援団との連携を深め、ねりっこクラブへの円滑な移行を進めます。



¹ 学童クラブ…保護者の就労等により放課後保育を必要とする児童を預かる施設

² 学校応援団ひろば事業…児童の遊び場の確保や異年齢児の交流、読書の推進を目的として、放課後帰宅せずに参加できる安全な居場所を、学校施設内に確保する事業

5 ひとり親家庭への支援の充実



ひとり親家庭の就労、子育て等における支援ニーズや課題を把握するため、平成 28 年 4 月にニーズ調査を実施しました。その結果を踏まえ、平成 29 年 4 月から区独自のプロジェクトとして、「生活」「就労」「子育て」の 3 つの支援を柱とした「ひとり親家庭自立応援プロジェクト」を開始しました。同年 6 月にはひとり親家庭総合相談窓口を開設し、各種支援事業を行っています。

ひとり親家庭ニーズ調査の実施（平成 28 年度）

平成 28 年 4 月実施。5,977 世帯に配付→回収率 43.2%

主な結果（分析）

- 相談支援体制
 - ・ひとり親の 75%が訪れる児童手当窓口
に相談窓口がない
- 生活
 - ・養育費の取り決めがない家庭が 51%
- 就労
 - ・49%が資格取得（社会福祉士等）を希望
- 子育て
 - ・子育ての悩みは「しつけ・教育」が 49%
 - ・子どもに関する悩みは「進学」が 57%

「ひとり親家庭自立応援プロジェクト」の開始（平成 29 年度）

■ 総合相談窓口（平成 30 年度相談件数 1,857 件）

様々な相談に応じ、各種支援、他部署等につないでいます。

- ・キャリアコンサルタントの資格を持つ専門相談員が対応
- ・総合相談窓口は児童手当窓口に併設
- ・平日夜間や土曜にも窓口を開設（予約制）
- 弁護士による法律相談（平成 31 年 4 月開始）
- 専門相談員による出張相談（平成 31 年 4 月開始）

- 支援サイト「ひとり親家庭支援ナビ」開設
- 「ひとり親家庭のしおり」発行



各種支援

生活を応援

- 養育費取り決め促進のためのパンフレット発行
- 家計相談の実施
- 生活応援セミナーの実施

就労を応援

- 資格取得等を支援
- 就労支援セミナーの実施
- ハローワークとの連携支援
- 自立支援プログラムによる個別支援
- 子どもの預かり支援

子育てを応援

- 訪問型学習支援・悩み相談の実施
- 親子交流や、ひとり親家庭間交流を支援



6 第1期計画の取組状況



第1期計画における取組の目標について、計画期間の終了時点（見込み）での達成状況は以下のとおりです。

達成度(需要見込みに対する供給実績)	達成率
★★★★★	100%
★★★★☆	80～99%
★★★☆☆	60～79%
★★☆☆☆	40～59%
★☆☆☆☆	20～39%

【妊娠・出産期～】子どもと子育て家庭の支援の充実

目標像 安心して子育てができる環境の整備

取組の内容	需要見込み (R1年度)	供給計画値 (R1年度)	供給実績 (R1年度末見込み)	達成度
妊娠・子育て相談員、すくすくアドバイザーの設置	12 箇所	12 箇所	12 箇所	★★★★★
子育てのひろばの拡大※	310,776 人日	27 箇所	27 箇所	★★★★★
一時預かり事業の拡大	101,916 人日	117,717 人日	115,372 人日	★★★★★
子どもショートステイの拡大	959 人日	4,380 人日	4,380 人日	★★★★★

※子育てのひろばは、国の規定により需要と供給の単位が異なります。上記達成度は、供給計画値に対する供給実績を示しています。

【乳児～幼児期】子どもの教育・保育の充実

目標像 練馬こども園の創設により、多様なニーズに応じて教育・保育を選択できる社会の実現

取組の内容	需要見込み (R1年度)	供給計画値 (R1年度)	供給実績 (R1年度末見込み)	達成度
私立幼稚園の長時間預かり保育の拡大	374,098 人日	490,946 人日	536,491 人日	★★★★★
教育・保育施設の定員拡大	27,027 人	29,094 人	28,901 人	★★★★★
延長保育の定員拡大	7,400 人	9,243 人	8,856 人	★★★★★
病児・病後児保育の拡大	13,810 人日	16,120 人日	16,640 人日	★★★★★
巡回支援員の確保	12 人	12 人	11 人	★★★★☆

【小学生～中高生年代】子どもの成長環境の充実

目標像 学童クラブと学校応援団ひろば事業を一体的に運営し、すべての小学生が安全かつ充実した放課後を過ごすことができる環境を整備

取組の内容	需要見込み (R1年度)	供給計画値 (R1年度)	供給実績 (R1年度末見込み)	達成度
学童クラブの受入枠拡大	5,780 人	5,816 人	5,784 人	★★★★★



23区「子育てしやすい街」No.1に選ばれました！

平成28年4月、不動産・住宅情報サイト「LI FULL HOME'S」調べによる「子育てしやすい街ランキング」において、練馬区が第1位に選ばれました。

ランキングは23区を対象としており、評価方法として、保育園数など待機児童に関わる項目や都市公園の数、犯罪の少なさ等の8項目から得点を算出しています。

練馬区は、保育園数とその定員数が多いこと、光が丘公園や石神井公園など、公園の数が多いことが高評価となった要因です。また、小児科の数も多く、すべての項目が平均を上回っていました。

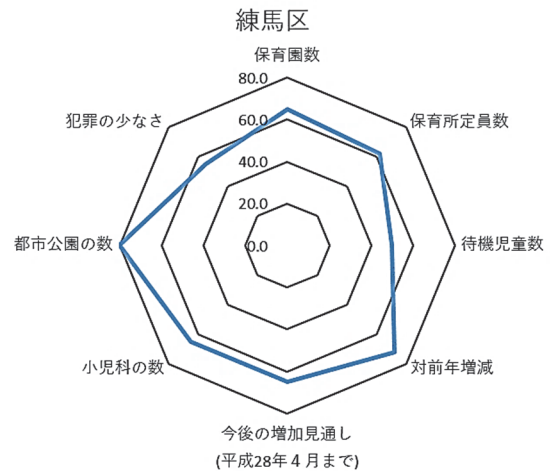
ランキングで1位となった練馬区は、「ママにとって公私共に充実した暮らしを送ることが期待できる」と評価されました。

また、平成28年7月、総合情報ニュースサイト「マイナビニュース」調べによる「家族で暮らしやすそうな区」に、練馬区が第2位に選ばれました。

マイナビニュース会員300名（東京都在住者限定）に、東京23区で「最も家族で暮らしやすそうな区」を聞いた調査結果¹で、14.0%の方が練馬区と回答しました。

その理由として、「住宅街もあり、適度に都会と田舎のいいところを持ち合わせているから」、「都心へのアクセスがいい上に自然環境もいい」等が挙げられています。

練馬区は今後も、子育てしやすく、暮らしやすい街No.1を目指していきます。



¹ 調査時期…平成28年4月26日～平成28年6月3日、調査方法…インターネットログイン式アンケート